

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲のさらなる向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT 機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫・改善をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。

イ 教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。

また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。

※授業アンケートにおける授業満足度について80%以上を維持する。(H30 80% /R01 80% /R02 80%)

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習について外部教育産業とも連携しながら、生徒一人ひとりの進路支援体制・学習支援体制のさらなる充実を図る。

※生徒の進路達成満足度について90%以上を維持する。(H30 97% /R01 98% /R02 98%)

2 安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、生徒一人ひとりに社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけさせる。

(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年団、生徒指導部の連携を強化し、学校全体が同じ基準でぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀・マナーの指導に全教職員が継続して取り組む。

イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、生徒の自主性を重んじながら社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。

また、部活動を通して、何事にも一生懸命取り組み、継続して活動できる力を育成する。

※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率を令和5年度には70%以上とする。(H30 68% /R01 51% /R02 51%)

※各行事に対するアンケート結果による満足度について85%以上を維持する。(H30 87% /R01 90% /R02 94%) ←実施できた体育祭のみの数値

(2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制について、保護者及び専門関係機関と連携しながら充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を次年度以降75%以上を維持する。(H30 63% /R01 73% /R02 72%)

(3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権意識を高める教育活動をさらに充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率80%以上をめざす。(H30 77% /R01 79% /R02 77%)

(4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応ができる連絡体制の徹底を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率を令和5年度には80%以上とする。(H30 66% /R01 75% /R02 74%)

3 英語をはじめとする外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

(1) 英語や他の外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。

ア 少人数展開授業、ICT 機器等の活用、アクティブラーニング型の授業等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら4技能（読む、聞く、話す、書く）をバランスよく伸ばす。

イ 姉妹校交流の充実、夏の海外研修、インターナショナルデイキャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的語学力をさらに向上させる。

ウ 第2外国語の成果発表会（校内・校外）を行うとともに、スペイン語の導入について検討をする。

※外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について次年度以降80%以上を維持する。(H30 - /R01 79% /R02 81%)

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組み、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率について85%以上を維持する。(H30 87% /R01 87% /R02 82%)

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。

(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を令和5年度には75%以上とする。(H30 63% /R01 71% /R02 62%)

5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。

(1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、教職員の意識を高め、時間外業務の減少をめざす。

(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。

※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、令和5年度には1割減（R02年度比）とする。

(3) より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 学習に関して、「視聴覚機器やコンピュータ、プロジェクター等を活用している」が、90%に達するとともに「学習環境面が整備されている」が86%と肯定的回答が高い。また、学習について講習など授業以外の学習機会が設定されているについては3年生が高く(84%)、「進路指導について適切な情報提供やアドバイスをしている」については、3年生で82%に達して学校として学習の機会や進路指導を適切に設定していると分析できる。一方、保護者の「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的な回答は41%にとどまり、アクティブラーニングなど生徒が「主体的、対話的で深い学び」のできる授業について指導法の工夫・改善を継続して行っていかなければならない。他教科あるいは他校の教員の授業に関する好事例を共有したり、端末の有効的な利活用の情報も含めた校内での研修を設定するなど、面白い魅力ある授業の開発に努める。</p> <p>【生徒指導等】 「学校の生徒指導方針に共感できる」については、生徒46%、保護者53%にとどまっていて学校の指導方針と生徒・保護者間に乖離が見られる。今後、生徒・保護者に指導等について理解を求める機会をつくとともに生徒・保護者の声に耳を傾けて、その声を反映した新たな指導方針を考える時期かと考える。学校行事については、肯定的な回答がコロナ禍前のR1年度の56%からR3年度は51%となり、コロナの影響が出ていると考えられる。また、生徒会については「積極的に活動している」は72%とこの3年間ほぼ同じ数値で一定の支持を受けている。コロナで行事に制限がかかることが多くなったが、実施できた行事(例えば体育祭)では、満足度はほぼ従来の数値を維持できた。また、「部活動は活発に活動している」R1年度58%からR3年度70%(生徒)となり、部活動全入などの活動により肯定的回答が増えた。</p> <p>【学校運営】 コロナ禍の影響で本校の特色である「国際教育が充実している」についてはR1年度87%がR3年度70%(生徒)に、また保護者の「学校の教育方針や国際教育の取り組み」についてはR1年度58%からR3年度44%となっている。この数字の下降はコロナの影響を受けた結果としてとらえている。今まで、対面で行っていた国際交流関連行事をオンライン等で行うなど、臨場感には欠けるものの、双方の交流の目的がしっかりしていれば、工夫次第でオンラインでも国際交流はできることがわかってきた。今後、新しい交流のスタイルになっていく感触が得られた。 情報発信については、早急に本校の特色や取り組みについて地域へ発信し、志願者の確保のために学校として取組む必要がある。また、「HPや携帯連絡網サービスで学校の様子がよくわかる」も61%(前年度62%)とほぼ横ばいとなっている。ホームページをはじめとする発信のあり方や充実が求められている。</p>	<p>第1回(7月12日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率が、41%(R1)から49%(R2)と上昇している。社会人になったときに重要なファクターとなるので、今後も継続して生徒の見守りをしてほしい。 コロナ禍の中、海外の高校等との姉妹交流が困難な状況も予想されるが、オンラインでの交流など可能な範囲で継続してほしい。河内長野市国際交流協会においてもお互いの強みを活かしてお手伝いしたい。また、国際交流や異文化交流事業などを地域に公開することで長野高校の広報活動の一助にもなる。 プレゼン能力のさらなる向上に期待する。英語や第二外国語を使うというだけでなく、プレゼン自体がこれからの社会に求められる。発表の場を多く設けるなど教科を超えて推し進めてほしい。 9割以上の生徒が「進学先に満足またはほぼ満足」という結果は素晴らしい。こういった点をもっと地域に発信すべき。 志願者増をめざすにあたり、例えば、近隣の中学校や塾などにどのような働きかけをするのかなど、広報活動のあり方を検討されたい。 <p>第2回(11月26日)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナで、行事の実施が困難になっているが、時期の変更や規模の縮小をしてでも、感染拡大予防対策を万全にして、実施の方向を模索してほしい。 コロナで不安を感じて、登校しにくい生徒が増加する可能性があることを踏まえて、今後も生徒が気軽に相談できる体制を維持してほしい。 広く外向けのアピール、国際文化科の取組みを地域の保護者や一般の方に発信し、見学の機会を設けてはどうか。 「グローカルリサーチ」のダッシュ里山授業で、自然界における森の役割、森の中の生態系、森林保全などについて、校内の森の中に入って体験学習は素晴らしい。河内長野市の活性化にもつながる。この活動を地元の中学校に発信するとか、体験授業として小学生、中学生に公開してはどうか。 グローカルリサーチは3年の選択授業になっているが、カリキュラム上、難しいと思うが、2年生、1年生でも開講できないか。 <p>第3回(3月22日)に実施後記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 河内長野市との連携協定において、双方の資源と機能を有効に活用することにより、さらなる長野高校の取組みを発展充実を期待する。 帰国生生徒に対するサポートが手厚い。今後も日本語サポートの教員を活用して入り込み授業等で、日本語や日本文化の円滑な修得を期待する。 国際交流事業が昨年度より活性化し、例えば海外研修がひとつでも実施できれば、生徒の学校生活満足度をアップさせると同時に、入学者確保に向けての各種広報・募集活動に貢献すると考える。 <p>・学校教育自己診断において低い数値になっている項目の原因を明らかにし、有効な「新たな指導方針」を検討されたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現や志願校への入学を達成	(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。 (2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。	(1) アイ ・「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、授業改善を推進するとともに、「観点別学習状況の評価」についての調査・研究を行う。 ・中学校との相互授業見学システムを継続し、中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。 ・1人1台端末の導入に向けて、これまでの学習スタイルにICTをいかに組み合わせていくかについて検討する。 (2) 学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。 ア 勉強会・講習・補習を組織的に計画・実施する。 イ 長期休業中の講習について、外部教育産業とも連携し、進路実現に向けた内容を充実させる。また、臨時休業時や登校できない生徒に対し、オンライン・ICT活用による教材提供をする。	(1) アイ ・授業アンケートの満足度80%以上を維持する。[80%] ・生徒のICT活用授業の肯定率90%をめざす。[89%] ・R4実施の「観点別学習状況の評価」の調査・研究チームの活性化 校内研修4回 ・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員率について80%以上を維持する。[80%] (2) 生徒向け学校教育自己診断における「勉強会・講習・補習等」についての肯定率について75%以上を維持する。[75%]	(1) ・授業アンケート満足度80%を維持(○) ・ICT活用授業の肯定率90%(○) ・「観点別学習状況の評価」導入に向けて校内研修4回 試行1回(○) ・授業見学・情報交換に参加する教員率はコロナ禍による密を避けたため、75%に留まったが、ICT等を活用した授業改善に取り組む教員が増え、ほぼ目標を達成したと思われる。(○) (2) ・勉強会・講習・補習等についての肯定率はコロナ禍により講習回数が減少したことにより、71% 今後、生徒のニーズを精査する(△)

府立長野高等学校

<p>2 安全安心な学びの環境整備、規範意識・ 人権意識・社会的基礎力の醸成</p>	<p>(1)規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3)人権意識の向上を図る</p> <p>(4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。</p>	<p>(1) ア学年間・生指部の連携を強化し、遅刻指導、身だしなみの指導等、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。 イ感染症対策を継続しながら、体育祭をはじめとする教育活動の実施および各種行事のさらなる活性化を図る。 ・生徒の部活動継続率上げる工夫を凝らす。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制について、SCに加えSSW等外部関係機関と連携しながら、充実させる。</p> <p>(3)新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さない人権が尊重された教育を推進する。</p> <p>(4) 緊急時の教職員の連絡体制を見直すとともに、生徒への防災教育を充実させる。</p>	<p>(1) ア生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率を45%以上とする。 [49%] イ・行事の満足度を85%以上とする。 (R02 体育祭94% 文化祭コロナの影響で実施できず) ・部活動継続率75%以上とする。[71%]</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を75%以上とする。[72%]</p> <p>(3)生徒向け学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」を80%をめざす。 [77%]</p> <p>(4)生徒向け学校教育自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を77%以上とする。[74%]</p>	<p>(1) ア生徒指導・支援体制の肯定率46% (○) イコロナにより文化祭を断念し、体育祭のみ実施。二度の延期によるモチベーションの低下のため、体育祭の満足度86% (○) ・70% コロナによる影響で部活動継続率は維持できなかったものの陸上部、ダンス部は全国大会へ。 (△) (2) 教育相談体制・支援体制の肯定率70% 教育相談に関する研修を行い、次年度は目標値を達成したい。(△) (3) 休校で人権講演会等が中止になることもあり、人権教育に関する肯定率77%に留まったが、講演資料による補完を行い、ほぼ目標を達成したと思われる。(○) (4) 学校安全に関する肯定率74%で目標に届かなかったがコロナにより避難訓練等が実施できなかったことを考慮すれば評価に値する。(○)</p>
<p>3 外国語教育、国際教育のさらなる充実</p>	<p>(1)外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2)国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。</p>	<p>(1) ア・少人数授業の利点を活かし、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、4技能をバランスよく伸ばす。 ・第2外国語において、共通した教授法の開発に取り組み、成果発表の場を設ける。また、スペイン語開設に向けて調査・研究を行う。 ・各種英語学力調査を継続活用し4技能向上の指標とする。</p> <p>イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、英語インターナショナルデイキャンプを含む英語での研修等を通じて、実践的英語力をさらに向上させる。コロナの影響で実施不可の場合はオンラインを活用して交流を図る。</p> <p>ウ 第2外国語の成果発表会を行い、外部に公開する。</p> <p>(2)Society5.0の到来に向け、校内における国際教育、ESDに関する行事(ユネスコスクールの取組みを含む)を企画・運営する体制を整え、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。</p>	<p>(1) ア・外国語に関する授業アンケート満足度80%以上を維持する。 [英語81%] [第2外国語89%] ・英語学力調査で、国際文化科において全国平均を上回ることをめざす。(R02 スピーキング、ライティング部門で○)</p> <p>イ国際交流、インターナショナルデイキャンプ等各行事の参加者の満足度80%をめざす。 (R02 コロナ禍で交流関係が実施できず)</p> <p>ウ成果発表会の満足度80%をめざす。 [前年度-]</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する肯定率85%以上を維持する。[82%]</p>	<p>(1) ア外国語に関する授業満足度 英語81.2%、第2外国語88.2%(○) ・英語学力調査でスピーキング部門では達成したが、ライティング部門では下回った。(△) 次年度、目標値達成に向けて授業の工夫改善を行う。</p> <p>イ国際交流関連の行事の満足度81% ウインターナショナルフェスティバルにおける成果発表会での満足度87%</p> <p>(2) コロナの影響で対面での交流が全て中止となり、規模を縮小したため、国際教育に対する肯定率70% (-)</p>
<p>4 ある学校づくりと情報発信 地域・保護者とながる魅力</p>	<p>(1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>(1) 学校、学年また各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・大学・福祉施設等と連携する取組みを積極的に企画実施する。</p> <p>(2) ・広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。 ・学校ホームページを魅力あるものに工夫・改善する。 ・また、保護者携帯へのメール送信に関して、内容を充実させるとともに、タイムリーな発信を心掛ける。</p>	<p>(1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について80%以上を維持する。[92%]</p> <p>(2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を70%以上とする。[62%]</p>	<p>(1) 地域連携、地域貢献の満足度83% 地域連携事業をさらに充実したものにするために河内長野市と連携協定を締結した。(○) (2) 広報に関する満足度61% (△) 学校ホームページの改修を行い、行事やイベント、部活動情報などの発信頻度を高めていく。</p>
<p>5 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。</p> <p>(2)教員を育成するシステムの構築を図る。</p> <p>(3)より確かな人権感覚を身につける</p>	<p>(1)教職員の負担軽減を考慮しながら、業務の見直しを図り、校務の効率化を図る。</p> <p>(2)首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的な「アクティブラーニング型教員全体研修会」を定期的実施し、校内の意思形成を図る。</p> <p>(3)研修を通して、より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境を引き続きめざす。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数(一人あたり平均)について、前年度比減をめざす。[217 時間 17分]</p> <p>(2)(3)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率について70%をめざす。 [80%]</p>	<p>(1) 時間外業務の年間時数 199時間54分となり、前年度よ8%減(○) (2) 次年度実施の観点別学習評価も含めた教員研修を3回実施し、肯定的回答率75% (○) (3) 職員人権研修やハラスメントに関する注意喚起を職員会議等で行い、肯定的回答率77%(○)</p>